

**「願わくはみ名を崇めさせたまえ。
み国を来たらせたまえ。
みこころの天になる如く地にもなさせたまえ。」**

だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。…』
(マタイによる福音書 6章 9, 10 節)

そこで、イエスは言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。…』 (ルカによる福音書 11章 2 節)

「み名」、「み国」、「み心」という言葉が、原文には「あなたの名」「あなたの国」「あなたの心」になっています。ここで、あなたとはもちろん神様です。私たちの祈りは、私自身の願いや求めが優先ではなく、神様のことを先ず願うことが求められています。

み名は神様ご自身です。神様はご自身がどのようなお方であるのかを、み名を通して示されました。「わたしはある」(出エジプト記 3:14)、と、ご自ら存在しておられる方を知らせてくださったし、また、イエス・キリストにおいて「インマヌエル」(マタイ 1:23)、我々と共におられる神として啓示してくださいました。人間は立ち入ることができない聖なる領域から神様ご自身が私たちに近づいてくださいました。そのような神様を聖なる方としてほめたたえることです。聖なるとは、区別されるという意味で、神様を神とし、人間は神様の前で偽りが無い人間になることです。神様のものはすべて神様に返し、人間は神様がお造りになった本来の姿を戻していくことです。神様はご自身が選んでくださったイスラエルに「あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主である私は聖なる者である」(レビ記 19:2)と言われました。私たちは神様の選ばれた民として聖なる者になるように命じられています。しかし、それは私自身の努力によってなることではありません。神様によって聖とされるのです。そして、聖とされた者としての責任と応答が求められます。

ですから、神様が支配する国が来ますように、御心がこの世に行われますように、と祈りながら、主の御導きに生きるよう求められているのです。

神の国は、神様の独り子イエス・キリストにおいて、「すでに」私たちのところに来ています。その主の恵みに生かされつつ、私たちは来るべき完全な神の国を待っているのです。ですから、「み国を来たらせたまえ」と祈りながら、主の栄光に迎え入れられる終末に向かって、生きているのです。神様のみ心がこの地にもなされますよう、神様が欲しておられることを願い求めながら、主イエスに従って生きることです。私たちの祈りは、神様を自分の側に引き寄せるのではなく、自分を神様の側に置いて神様のみ心に合わせることです。自分の肉なる思いを捨てて、聖なる霊に身を委ねるのが祈りの基本であるのです。

***共に祈りましょう**

- ・天にますます我らの父よ、あなたの聖なるみ名を高め、ほめたたえます。
- ・主イエス・キリストを通して、あなたが支配しておられるみ国に生かされている恵みに感謝いたします。あなたの愛に満ちたみ国がこの地に広げられますように。
- ・あなたのみ心を願い求めながら、み心に適う者として生きるよう私たちを導いてください。